

別記様式第2号

令和 6 年 5 月 29 日

行政視察報告書		(会派の場合) 会派の名称				
		代表者氏名				
		(会派以外の場合) 議員氏名 待寺 真司				
参加議員	荒井直彦		議員	伊東圭介		議員
	笠原俊一		議員	待寺真司		議員
			議員			議員
			議員			議員
日 程		令和6年5月9日(木) ～令和6年5月10日(金)				
視 察 先		(1) 福岡県北九州市(民間企業)				
		(2) 福岡県豊前市(NPO法人)				
		(3) 大分県宇佐市(スポーツ施設等)				
視察目的 (項目)		(1) 竹林整備と竹の再利用について				
		(2) 障がい者雇用事業の展開について				
		(3) スポーツ推進事業について				

【調査内容・概要】

（１）福岡県北九州市

北九州市は、1963年2月に門司市・小倉市・若松市・八幡市・戸畑市の5市が対等合併し、同年4月には政令指定都市となり、九州の玄関口として発展してきました。翌1964年には、世界初となる5市の対等合併に関して国連の視察団が視察に訪れたとのこと。新日本製鉄の旧八幡工場などが操業しており、工業地帯のイメージが現在も色濃く残ってはいますが、門司港駅の整備やスペースワールド（八幡工場有休地・2018年1月閉園）の誘致など、観光産業に力を入れるとともに、2001年には「北九州市環境基本条例」を施行し、市内を流れる紫川の水質改善に取り組むなど環境対策にも力を注ぎ、2008年には国から「環境モデル都市」に認定され、2018年には「SDGs未来都市」にも認定されて、国内外に環境都市としての名声を轟かせています。

行政面積は491.95㎢と広大ですが、人口は本年4月1日現在909,579人で、人口密度は1,847人／㎢となり、当町よりも若干少ない状況です。総面積の約40%が森林です。今回視察で訪れた「一般社団法人 森人未来の研究所」は、市内で最大面積の小倉南区にあり、前述の紫川の源流があります。

視察の目的は、葉山でも大きな課題となっている竹林の整備についてです。荒廃した竹林に手を入れて、切り出した竹を原料として再生する「竹パウダー」をはじめとする竹の利活用についてご教示いただきました。



👉 衝撃的なメッセージポスター

👉 砂防ダムの上流側壁面型枠に竹材使用

社屋の入り口には添付写真のポスターが掲示されていて、環境都市北九州市が現在抱えている問題を解決するため活動されている、森人未来研究所の山口理事長から現況と活動内容の話を伺い、また「竹パウダー」の製造工場を案内していただきました。市内約2万haある森林の中で、竹林が推定で約10分の1程度あり、現在も竹林と、その内の約75%を占める放置竹林も増えているとのこと。竹林による浸食が世界一のまちと言われており、生物の多様性や自然環境の循環を促進し、SDGsの理念を推進するために日々奮闘されている皆様から、大変貴重で参考となる話を聞くことができました。竹を利用した砂防ダム建築用の「竹製残存型枠」の取り組みも説明いただきました。ちなみに、25%程度活用されている竹林で生産される「合馬たけのこ」は日本有数の品質で名が通っております。

★北九州市小倉南区にある一般社団法人森人未来の研究所を訪問した。

代表の山口登氏の名刺を確認すると、生物多様性の保全・自然豊かな北九州の自然を守ります森守人 山口登（やまぐちたかし）とあり、裏面は竹パウダー・竹炭・竹酢製造及び販売 障がい者さんと共に竹をリサイクルし色々な再生可能な資源にします。

「ストップ温暖化！！ 100年後の未来の子供へ、より良い環境を目指して！」
一般社団法人 森人未来ノ研究所と記載されていた。

放置竹林の諸問題は当町を含め全国的な課題である。視察地の小倉地域は葉山町よりも高い山並みに囲まれ、気候の影響か竹林も山頂部まで広がり、一本ごとにもかなり太い竹が多く見受けられた。

竹のことを調べると、わが国ではかなり昔から育てられ食糧、籠やざるなどの日用品、建築資材、庭園、垣根、箸、うちわ、傘など日常生活の中に多く使われてきた。しかし生活様式の変化からプラスチック製品など、多くの建築資材、造園、園芸資材も竹製以外に変わり、タケノコなどの食料製品も安価な国外製品が多く占めるようになった。

山口氏の説明では、国内の山から竹を切り出すには、日本の労働環境を含め重い竹の搬出には人力や電動機器、重機機材の使用、さらに斜面整備や道整備も必要となる。若い世代には好まれにくい労働環境などから、人件費の安い海外製品に負けてしまうなど、社会・経済構造などの問題も絡むとのことであった。

成長が早く、密集度の高い竹は他の木々の成長を妨げ、さらに山の保水性も崩れる要因から斜面崩壊にもつながり、野生生物の繁殖増加にもつながる。森人未来の研究所での製品は、竹を組んだ斜面や堰止めの柵もあるが、3年から6年産の（竹の繊維の内）竹腔に含まれる乳酸菌が土壌微生物を増やすことから、田畑の耕作土地改良に効果が高い竹パウダー（サンタニタケル）の製造も手掛けていた。

天然材料としての肥料であり、環境にやさしく米や野菜など肥料としても安全で非常に効果があるとして販売している。賛同する企業や農家、個人が森人未来の研究所の会員となっており、竹パウダーで育てた人参をベースにした「にじどれドレッシング」の通信販売、地元レストランでは竹パウダーで育てた食材によるピザやパスタ料理を提供、近隣地域への宅配便事業などされていた。

放置竹林の問題は当町でも、以前には見られなかったイノシシなど鳥獣被害にも関連する課題である。さらに人口減少が急速に加速する将来、今対応していかないといけないと感じている。



👉 工場内にある竹パウダー製造機械

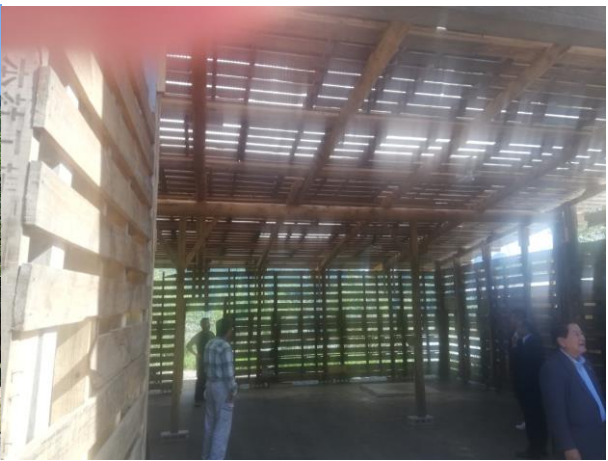


👉 竹パウダーの製品 10kg @ 3000円

記 笠原 俊一

（２）福岡県豊前市

豊前市は、福岡県の東端に位置し北部は周防灘に面しており、南部は大分県中津市と接していて、豊前平野が扇状に開けている自然豊かなまちです。昭和の大合併で、八屋町・角田村・山田村・三毛門村・黒土村・千束村・横武村・合河村・岩屋村の9カ町村が昭和30年4月10日に合併して今日の豊前市が作られました。発足当時は宇島市だったのですが、四日後に名称変更がなされました。経済的には北九州市と、市民生活や文化面では中津市と深い関係にあるそうです。鉄道ではJR九州日豊本線が、道路網では東九州自動車道と国道10号線が通り、京築地域南部の中心都市として位置しています。令和6年4月末人口は、23,580人・11,761世帯が、行政面積111.01㎢に暮らしています。人口は減少傾向が続いており、10年前の平成26年4月末には27,434人だったので、10年間で3,854人、年間380人前後減少しています。



👉 移設された巨大な机と椅子のオブジェ

👉 ブリケット製造ライン移設場所

★「森の学校」への訪問は 2021年11月17日に一度、伺っており2回目の訪問であった。以前の事業内容は経営理念「【森の学校】はこころや、体に“病”を持った方たちが、もう一度自立した、その人らしい日常生活を自分の意思で歩んでいくことを応援することを目的とする。」

住所：福岡県豊前市大字下河内658

総敷地面積 約7.5ha 現在は1.5haを整備している。

事業所：就労継続支援B型 2005年3月に登録 33名在籍

おもな製品 木質ペレット製造・販売 ← 製造機械等は ダレスサンドロ製を使用している。

面談者：舟橋 慎一郎前理事長

：ダレスサンドロジャパン株式会社 鵜池俊幸代表取締役

2024年5月9日に訪問して判明したことは、

＊「森の学校」の事業を舟橋理事長から、新しい組織に移管され、近くの保育園跡地に新しい事業所が完成し、全て 移転した。(現在の理事長は弟さんの舟橋さん)

＊現在でもペレットの製造販売は、継続されていて、施設との関係はある。

前回の視察報告書にも記載があるが、下記の内容が稼働する

「近い将来には、現在、研究中であるブリケットの製造・販売を構築して、軌道に載せたいとの事でした。敷地内の山で、豊富にある針葉樹は、熱量がとても高く、特色も活かせる為との説明を受けました。(鵜池代表)」

このブリケットの製造・販売・活用に関しては、葉山町でも導入可能な事業と私自身は思っていて今後の稼働状況も含めて、更に、研究と検証を継続していきたい。

また、森の学校入口前に巨大な椅子のオブジェがありましたが、移設され、近くの廃校になった小学校の運動場に新たに巨大な机が追加されて、椅子とセットになっていました。理由は、以前設置されていた土地の所有者からの再利用の打診があり、調整で今回の場所に移設したとの事でした。



👉 木質ペレット製造ライン



👉 豊前バイオマス木質ペレット製品

記 荒井 直彦

（３）大分県宇佐市

宇佐市は大分県の北部に位置し、周防灘（豊前海）に面していて平野が多くある宇佐地区と、大小の谷が連なる院内地区、盆地が中心でワインが有名な安心院地区によって構成された自然が豊かで、また「文化財の宝庫」と呼ばれるほどの数多くの歴史・文化遺産があるまちです。

平成１７年３月に宇佐市・院内町・安心院町が合併して、新宇佐市が誕生しました。行政面積は４３９．０５㎢で、当町の約２５倍の広さに、令和６年３月末現在５２，２６２人、２５，８９４世帯が暮らしています。市の花はつつじであり、当町と同じです。「定住満足度日本一、交流満足度日本一のまち」を目指して行政運営を進めております。移住者は着実に増加してきていたのですが、自然減をカバーするまでには至らず、合併当時は６万人を超えていた人口が年々減少しています。

★前回は、令和４年１月１６日に宇佐市役所を訪問し、「コロナ感染拡大防止対策について」・「地域コミュニティ組織と行政の協働について」視察研修しました。今回は、「平成令和の森スポーツ公園整備事業」と「宇佐市のスポーツ振興施策の展開」について視察研修しました。

宇佐市の概要は、大分県北部に位置し、北に周防灘が開け、南は立石山・人見岳など標高１０００ｍ弱の山岳を境に玖珠町・由布市、西は中津市、東は豊後高田市・杵築市・日出町・別府市にそれぞれ接しており、県都大分市と北九州のほぼ中間に位置しています。

交通網は、海岸沿いにＪＲ日豊本線、平野地域に国道１０号線、中央部に宇佐別府道路が東西に走っているほか、国道３８７号線が北から南の玖珠町まで延び、国道５００号線が内陸盆地地域を横断して走り、中津市及び別府市に通じています。また、東九州自動車道が平成２８年春に完成し北九州市から宇佐市まで約５０分で行けるようになったそうです。

平成１７年３月に安心院町・院内町と合併し、現在の宇佐市になっています。人口は、約５万人、面積は、４３９㎢です。全国に４万社余りある八幡社の総本宮である国宝、宇佐神宮があることでも有名です。

今回視察した平成令和の森スポーツ公園は、旧院内町に位置しており、合併前にすでに整備されていた施設を一部改修工事がされたものです。所管課は、宇佐市経済部文化・スポーツ振興課です。



👉 サッカーグラウンドはＪＦＡ認定競技場 👉 野球場は両翼９５メートルと広い

（１） 平成令和の森スポーツ公園整備事業について

① 施設概要

１． 屋根付運動広場「石橋童夢」

面積４０×５０ｍ（テニスコート２面）土のグラウンドで雨天時にはその他の競技にも使用可

照明設備・観客席４００席



👉「石橋童夢」は施設内で一番最初に整備。テニスや雨天時の野球練習などで利用。

2. 陸上競技場

400Mトラック×8レーン（全天候型ウレタン舗装）第4種ライト公認陸上競技場・写真判定室・照明設備・観客席528席

インフィールド内（ロングパイル人工芝）JFA公認人工芝 サッカー・ラグビーに対応

3. テニスコート

人工芝コート4面・照明10基・観覧席100席

4. 野球場

両翼95m・中堅120m 内野土・外野天然芝

電光掲示板・照明設備・メインスタンド客席867席

5. クロスカントリーコース

全面野芝・1周600mコース、400mコース（幅員5m）

6. 農村交流センター（スポーツ交流・合宿施設）

平成14年築（平成30年に合宿施設に目的替えして増改築）

70名収容可能・2段ベッド

7. 駐車場

施設全体で合計578台駐車可能



👉 丘陵地を利用したクロスカントリーコース。起伏が激しくトレーニングに最適

② 管理者

当初、直営にて管理していたが、平成１８年度から随意選定による指定管理者制度を導入して宇佐市施設管理公社が管理している。（現在５期目）
職員数は、１４名

③ 財源

- ・スポーツ振興くじ助成金
- ・ＪＦＡサッカー施設整備助成事業
- ・過疎地域等振興プロジェクト推進事業補助金
- ・基金
- ・一般財源（単費）
- ・地方債（過疎債・合併特例債）

④ ランニングコスト

主要施設の指定管理料は、令和５年度で３５，７９９千円
農村交流センター（合宿施設）は直営。令和５年度の歳出（管理料）
１１，０５９千円
歳入（施設使用料）８，６７０千円



👉 農村交流センターを改装して合宿所にリノベーション。韓国野球チームも利用。

（２） 宇佐市のスポーツ振興施策の展開について

① 現状の施策

「宇佐市スポーツ推進計画（Ｒ２～Ｒ７）」に沿って推進。

- ・全国的なスポーツ大会や合宿の誘致
- ・トップレベルスポーツに触れる機会の創出や国際交流
- ・気軽に参加できるスポーツイベント実施等による郷土愛づくり
- ・スポーツに関わる人材育成や推進協議会を中心とした体制整備
- ・利用者ニーズの把握やユニバーサルデザインの導入
- ・施設の利用方法や予約方法の適宜見直し
- ・全国大会等に出場する選手の激励や出場団体等への支援
- ・合宿誘致等に伴う地場産業等との連携
- ・総合型地域スポーツクラブ活動の普及啓発

② 中学校部活動の地域移行状況と総合型地域スポーツクラブの関わり

令和４年７月に宇佐市教育委員会告示で「宇佐市部活動検討委員会設置要綱」を制定し、学校教育課と文化・スポーツ振興課を合同事務局とした検討委員会を設置。委員に総合型地域スポーツクラブ代表やスポーツ推進委員代表、スポーツ団体及び学校関係者等を選出し、これまでに計４回の検討委員会を開催した。また、令和６年度より教育委員会学校教育課に「部活動地域移行支援コーディネーター」を１名配置（元校長）し、検討委員会の調整や学校・地域・行政等の調整役を担っている。現在、宇佐市には、ＮＰＯ法人の総合型地域スポーツクラブが２団体ありそれぞれ７種目、６種目、計１３種目の活動をしている。

③ スポーツ大会等出場補助金事業と交付実績

「宇佐市スポーツ大会等出場補助金交付要綱」により交付
令和５年度の実績は、１４２件、２,４０１千円

④ ニュースポーツへの取組み状況

現状では、具体的な取組みはないが近年、ダーツやＢＭＸ、スケートボード等の「アーバンスポーツ」と言われるものにニーズを感じているとのこと。若年層のスポーツ離れ改善や健康増進、地域活性化につながることや実際に施設利用の問い合わせ等もあることから今後のスポーツ推進計画等の更新に併せて検討する必要性を感じているとのことでした。

今回視察したスポーツ公園は、山間の谷戸を埋め立てて平坦地を作り、段差を利用して各施設を上手に配置しており非常に参考になりました。広さは違えども本町の南郷上ノ山公園にも似た立地でした。総合型地域スポーツクラブの運営や中学校部活動の地域移行についても参考になった視察研修でした。今後、公共施設再編計画の中でスポーツ振興の核となる施設整備の充実は、欠かせない施策であると考えます。

記 伊東圭介

（４）その他現地踏査「宇佐市総合運動場・体育館等」及び「宇佐八幡宮」

平成令和の森スポーツ公園視察終了後には、宇佐市総合運動場（武道館及び相撲場）及び三和酒類スポーツセンター（宇佐市総合体育館）にも伺い、アテンドいただきました宇佐市議会和気議員のお取り計らいにより、指定管理者の担当職員から施設案内を受けることができました。

その後、日本全国にある約１１万のうち、最も多い４万社あまりが八幡神を祀る八幡社で、その総本宮である宇佐神宮を訪問して、こちらも和気議員のお取り計らいにより、大久保権宮司に広大な敷地面積を誇る境内をご案内いただき、大変興味深いお話と貴重な体験（見学）をさせていただきました。



👉 第６９代横綱双葉山生誕地の宇佐市。相撲場や武道場、弓道場などがある。



👉 総合体育館は太陽光を上手に取り入れていて照明なくても明るい。

宇佐神宮は、八幡神が仏教に救いを求めたことを契機として「神仏習合」の思想が成立し、738年には境内に弥勒寺を建立して、全国で初めて神社と寺院を並立させて、まさに神仏習合の始まり地となったとのこと。また、八幡神と大神杜女が東大寺の大仏を拝するため輿に乗り向かったのが神輿の始まりとされているとのことでした。このことは「続日本紀」に記されていて確認できる最初の神輿だそうです。「神様は足がないので輿に乗っていくしかない」との説明があり、なるほどと思いました。真言宗の開祖空海や天台宗開祖最澄も宇佐神宮を参拝した話など歴史を感じる数々のエピソードを拝聴しました。



👉 宇佐神宮境内にある八幡神のご顕現の聖地と御霊水が湧き出ている井戸。

また、現在修復作業が行われている上宮西大門の工事現場も拝見させていただきました。毎年30万枚も使用して実施する、檜皮葺を張り替える作業や、塗り替え作業を直に見学できるツアーも実施されていて、今回は特別に作業中の現場で大久保権宮司より作業内容等の貴重なお話を伺うことができました。8月には流鏝馬が開催され多くの参観客で賑わうとのことでした。 視察概要&編集 待寺 真司

